



JSQC ニュース

No.315

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 関西支部の活動紹介
- 2-私の提言 品質マネジメントと統計的方法の発展のための産学官連携の必要性
- 2-支部の研究会〈中部〉
- 3-第41年度 品質管理推進功労賞推薦のお願い/12月の入会者紹介
- 4-1月の入会者紹介/行事案内/事務局からのお知らせ

関西支部の活動紹介

関西支部長 岡原 邦明

日本企業は、世界経済の中で勝ち残っていくために、さまざまな構造改革や将来の成長戦略構築に頭を悩ませている。また、低炭素社会の実現に向けて、太陽光発電や電気自動車など、革新的な技術開発が求められる時代となってきた。今後、日本企業がさらに成長し、グローバル競争に勝ち残っていくためには、日本企業元来の強みである「技術開発力」「品質力」ならびに、それらの基となる「人づくり」がますます重要となっている。

このような状況の中、これまで日本の文化や産業を支えてきた“ものづくり”“サービスづくり”の基盤を引き続き維持・発展させていくことが必要であり、このとき、品質管理の果たすべき役割はますます大きくなっている。

関西支部では、品質力、組織・マネジメント力、現場力、顧客対応力の向上策について具体的に提言することにより品質管理のレベル向上に貢献することを目的に、事業活動のさらなる活性化を図り、より多くの会員が満足できる活動を展開していく。

☆事業のコンセプト

- ①会員の質的向上を図り、品質管理のレベル向上に貢献できる成果を出す。
 - ・研究会、研究発表会
- ②会員の相互研鑽を図り、大学の研究活動や企業の品質管理活動に寄与

する。

- ・シンポジウム

- ③会員・非会員を問わず、品質管理に関する有益な内容を提供し、日本品質管理学会の活動を世間に広く理解浸透させる。

- ・講演会、事業所見学会

- ④会員サービスの向上

- ・QCサロン

☆研究会活動

- ①統計的品質情報解析研究会

「新たなSQCの開発・実践を行うこと」「誤用を防ぐために既存SQCの再検討を行うこと」を通してSQC活動を活性化させる。

- ②科学的先手管理アプローチ研究部会
マネジメントの課題を階層別に取り上げ、日本品質管理学会が培ってきた数々のQC技術(信頼性、IE、OR等を含む)をベースにし、科学的な先手管理、源流管理へのアプローチを体系化する。

- ③品質管理教育教材開発研究会
受講生が、ものづくりやそれを支える品質管理に対して興味を持てるように、学校・企業の教育分野で使える品質管理教育の教材を開発し、教育の仕方やマニュアルも併せて提案する。

☆研究発表会

企業のニーズと学におけるシーズを

マッチさせ、産学で相互に研鑽できる発表会を企画する。[1回]

☆シンポジウム

今、最も要求されているテーマを選定し、活発な議論のできるシンポジウムを企画する。[1回]

☆講演会

“ものづくり”“サービスづくり”の発展に寄与できる魅力ある講演会を企画する。[1回]

☆事業所見学会

特色のある事業所の見学を企画する。[2回]

☆QCサロン

会員サービスの充実を図るため、講話とざっくばらんな質疑応答ができるサロンを企画する。[5回]

☆関西支部企画運営委員会の開催

支部運営に関する各種の検討を行い、支部事業の活性化を図っている。検討結果は必要に応じて役員会に報告する。なお、メンバーは幹事長ほか数名とし、幹事長が指名する。

以上が、関西支部の活動概要である。なお、支部活動に関する各種データ収集・管理を継続的に行い、支部活動の現状把握、関西支部の品質管理活動の活性化に役立てていきたい。

● 私 の 提 言 ●

品質マネジメントと統計的方法の
発展のための産学官連携の必要性

岡山商科大学経済学部 西 敏明



品質管理の歴史的・関わる世代、技術発展の経過を鑑みると、時代を経ても産業界・学界

ともに品質の事象について、研究課題として、また日常的に考えるべき課題や問題は数多くあるのではないだろうか。品質管理の管理技術としての要素は多くあり、目的品質構築のプロセスで、どう保証していくかの仕組みが重要である。品質管理の対象は様々な質であり、適用分野は実に様々である。

本学会において、品質マネジメントや統計的方法論の研究も盛んに行われている。研究において、科学的な論理構

築の妥当性を含めシミュレーションなどを行う学術性の高い研究の場合や実際に実験的に行う場合、また既存データを適用・深化している論文など数多くある。その際、背景となる論理的視点、制約条件等を含め検討していくことは当然のこととして行われている。

私自身の研究課題の一つである品質保証の観点から取り組んでいる生物代謝システム（輻輳した代謝システム、遺伝子制御の調整機能）は、まさに日常的に絶え間なく品質管理の適用を行っている。これは品質管理を基軸とした新たな品質保証システム一里塚にもなると考えられる。

私自身の浅い経験ではあるが、上記に関連した研究で品質保証システムを

研究するために、仮説・検証を逐次する。その際、適用するべきデータ、シミュレーション、実験環境等々、様々な観点から行う。データの観点から研究推進で「様々なデータを取得する際や、背景として存在する制約条件の壁」がある場合が存在する。これは他分野、他の学術研究でもあるのではないかと考察される。そのため産学連携し、相互を十分に考量した環境整備並びに官が支えるシステムの必要性を感じる。

企業にとっても、様々な分野の適用においても、研究が盛んに行われることは、「品質マネジメントシステムの開発」、「新たなナレッジ開発の一考」、「新たな統計的方法論の適用」にも繋がり有用性は高いと考えられる。産学研究の推進のために、産学の摺り合わせや共有化・連携がますます必要になる。これこそが品質管理の分野の発展のために考えていかなければならない事項ではないだろうか。今後のさらなる産学官連携の推進を期待したい。

支部の
研究会
〈中部〉

産学連携現地現物研究会

“Qの確保”、“Qの展開”、“Qの創造”

主査 永田 靖（早稲田大学創造理工学部経営システム工学科教授）

2006年、日本品質管理学会の当時の会長だった桜井正光氏（現 ㈱リコー会長）が打ち出した“Qの確保”、“Qの展開”、“Qの創造”というスローガンを実践する方策の一つとして、品質管理の分野における産学連携研究の強化が取り上げられました。本当に困っている事例を出してもらうため、クローズドな形で、1社（1グループ）限定の形式で、いくつかの研究会をトライアル的に立ち上げることになりました。その一つが本研究会です。

当時、日本品質管理学会副会長だったトヨタ自動車技監の渡邊浩之氏が産側のリーダーとなり、私が学側のリーダーとなって、産学連携現地現物研究会を立ち上げました。1年間ほど、研究方向を模索したのち、モノづくりの上流である開発・設計をターゲットとして、プロセス管理と問題解決の両面から研究することになりました。品質・技術力向上のために、エンジニアはどのように仕事を進めていけばよいかという視点で取り組み、その中で例えば品質工

学とSQCの融合についても検討を行いました。

これらの成果を、2010年に『開発・設計における“Qの確保”』（日本規格協会）という書籍にまとめました。この書籍は、2010年度の日経品質管理文献賞に選考していただきました。

この書籍の第7章は「開発・設計における技術力アップのための問題解決の実践方法」というタイトルで、まさに、品質工学とSQCとの融合について記述しています。現在は、この部分を深掘りする方向で研究会を続けています。例えば、品質工学を教育・実践していく中で、教科書どおりの解析でうまくいかない場合があります。特に、ロバスタパラメータ設計を行っても、確認実験で再現性が得られないとき、どうすればよいのか。そこに、SQCの視点からの対処方法が模索できるのではないかと考えています。

改善手法の新たな体系化を目指したいと考えています。

第41年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第12回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：

以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名以内とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 女性に対する配慮を積極的に行う。
- f. 41年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

評価項目：

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

【A】所属組織への貢献

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

【B】地域・社会への貢献

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b 7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。）

様式については、下記Web頁よりダウンロードしてください。

URL：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html
業績リスト（様式219-2）の業績については、上記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2012年6月30日(土)

メール送付先：2012kourou@jsqc.org

選考：(社)日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

表彰：2012年10月27日(土)

本学会 年次大会 授賞式

連絡先：(社)日本品質管理学会事務局

参考：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html

2011年 12月19日の入会者紹介

2011年12月19日の理事会において、下記の通り正会員23名、賛助会員3社の入会が承認されました。

（正会員23名）○小川 博敏・鶴田 明三（三菱電機）○落合 貴司（パナソニック）○須田 晋介（テクノファ）○高

山 孝美（本田技研工業）○中村 正典（日東精工）○湯浅 康統（住友金属工業）○高田 正夫（吉川化成）○岡田 慎也（ダイキン工業）○尾島 徳夫（日本消防検定協会）○新垣 重男（トーフレ）○吉年 孝司（日本触媒）○谷和 英夫（山崎産業）○遠藤 雅寛（東根新電元）○岩崎 周一（栄研化学）○辻 毅浩（OEMシステム）○中井 希（能瀬精工）○大槻 憲一（アイ・エム・エ

ス・ジャパン）○熊澤 光夫（スリーボンド化成）○田中 賢一（日本電産）○谷 幸雄（東芝ソリューション）○宋 相載（広島工業大学）○倉本 英次（アサヒゴム）

（賛助会員3社3口）○日立オートモティブシステムズ○ワイ・ディ・シー○ジュピターテレコム

2012年 1月31日の入会者紹介

2012年1月31日の理事会において、下記の通り正会員5名、賛助会員1社の入会が承認されました。

(正会員5名) ○佐藤 昇 (三和ボーリング) ○田村 綾子 (ソフトバンクテレコム) ○深川 良美 (京都大学医学部附属病院) ○小原 哲治 (エスエス電子) ○柴田 和治

(賛助会員1社1口) ○宇宙航空研究開発機構 安全・信頼性推進部

正会員：2316名
準会員：109名
賛助会員：153社197口
公共会員：22口

行事案内

●第112回講演会 (本部)

テーマ：「医療のTQM七つ道具」出版記念講演会

講演者：医療経営の総合的質研究会
日時：2012年4月20日(金)13:00～16:15
会場：東京都医業健保会館
参加費：会員4,000円(締切後4,500円)
非会員6,000円(締切後6,500円)
準会員2,000円・一般学生3,000円
申込締切：2012年4月13日(金)
申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第113回講演会 (中部)

日時：2012年5月21日(月)13:00～16:40
会場：刈谷市総合文化センター 1F小ホール
プログラム：
講演①：「ダントツ経営 (仮題)」
坂根正弘氏 (JSQC会長、(株)小松製作所)
講演②：「これからの日本のエネルギー問題を考える (仮題)」
武田邦彦氏 (中部大学)
参加費：会員4,000円 非会員5,000円
準会員2,000円 一般学生2,500円
申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。

●第98回研究発表会 (本部)

日時：2012年5月26日(土)・27日(日)
会場：日本科学技術連盟 東高円寺ビル

プログラム：(予定)

・5月26日(土)
12:30～13:30
チュートリアルセッションA
「システム思考で考えるソフトウェア品質マネジメント」
野中 誠氏 (東洋大学)
13:35～14:35
チュートリアルセッションB
「ISOマネジメントシステム規格の最新の動向」
岡本 裕氏、高井玉歩氏
(財)日本規格協会)

15:00～18:20 研究発表会
18:30～20:00 懇親会
・5月27日(日)
10:00～16:15 研究発表会

参加費：
チュートリアルセッション・研究発表会
会員6,000円(締切後6,500円)
非会員12,000円(締切後12,500円)
準会員3,000円・一般学生4,000円
研究発表会のみ(1日参加/2日参加とも)
会員4,000円(締切後4,500円)
非会員8,000円(締切後8,500円)
準会員2,000円・一般学生3,000円
懇親会
会員・非会員4,000円
準会員・一般学生2,000円

申込締切：2012年5月16日(水)
申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第141回シンポジウム (本部)

テーマ：開発・設計における品質のつくり込みとプロセスの見える化
日時：2012年7月9日(月)10:00～17:00
会場：日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部 1号館3階講堂
定員：150名
参加費：会員5,000円(締切後5,500円)
非会員10,000円(締切後10,500円)
準会員2,500円・一般学生3,500円
申込締切：2012年7月2日(月)
プログラム：
基調講演「産学連携強化による新付加価値の創出」
坂根正弘氏 (JSQC会長、(株)小松製作所)
事例(1) 小杉敬彦氏 (トヨタ自動車(株))
事例(2) 阪口知弘氏 (株)リコー 永原賢造氏 (PMT)
事例(3) 呉 宏堯氏 (株)IHI
事例(4) 鈴木孝幸氏、木内 保氏 (日野自動車(株))
事例(5) 永松陽明氏 (日立建機(株))
パネルディスカッション
申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第99回研究発表会 (中部) 発表募集

日時：2012年8月29日(水)
会場：名古屋工業大学
申込締切：発表申込締切：5月31日(木)
予稿原稿締切：7月20日(金)必着
参加申込締切：8月22日(水)
申込方法：中部支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。
詳細：ホームページをご覧ください。

事務局からのお知らせ

医療経営の総合的「質」研究会「医療のTQM七つ道具」1月発行

判型等：B5判、184ページ
編著：飯田修平、永井庸次
定価：2,520円(税込) → 学会員特別価格：2,016円(税込)
申込方法：ホームページより会員専用注文書をダウンロードし、FAXにてお申し込みください。E-mailでも受付しています。
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyukai/purchase.html>

※書籍は請求書を同封して(財)日本規格協会から発送いたします。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
本部：TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail: apply@jsqc.org
中部支部：TEL 052-221-8318
FAX 052-203-4806
E-mail: nagoya51@jsa.or.jp